偽造署名と金持ち減税に「ゆがめられた」議会解散に 反対しましょう！

彼らはどんなひどい事をしましたか？2つだけ実例を挙げると・・・

①リコール署名は、46万人と言いながら、偽造や失格記載が続々。選管のお情けでやっと基準を超えたことになっていますが、厳密にチェックすれば大半が失格かもしれません。

②減税の「市長公約」に議会が反対するのはけしからん、と言いますが議会はちゃんと議決しています。河村氏の事実誤認です。逆に、「金持ち減税ゼロ」の公約に違反しているのは、市長自身です。金持ちにばかり減税の特典を与え、市民はおこぼれだけではないですか。

河村氏の本当の狙いは何か？

それは、自分に逆らう議会をつぶして、言うことを聞く議員だけにする。そして彼らを使って、市民の暮らしを踏みにじろうとすることです。

こんなリコール請求をあなたは許せますか？

だから、反対しなければならないのです。河村氏の野望・横暴を名古屋市民みんなの力で打ち破りましょう。そのためには、市議会解散に反対するのがまず第一です。

名古屋市政の民主主義を守る14人の会

世話人：　水田洋大島良満　成瀬昇　問合せ先　大島良満（電話０５２－７９１－５９９６）

名古屋の民主主義を、河村汚染から守るために

「反対」の票を投じましょう！〈アピール〉

名古屋市民、とくに有権者の皆さんに訴えます。

ご承知のように、２月6日には、地方自治法による直接請求として、市議会解散の是非を問う住民投票が行われます。それと同時に、河村市長が自分勝手な理屈から辞職したので、市長選挙も行われます。

しかしその過程では、いくつかの欺瞞（ぎまん）があったことに、注意しなければなりません。

第一の欺瞞（ぎまん）、議会を排除し、意のままの議会を作って独裁権力を握ろうとする企み

河村市長は、自分の減税公約の実現を市議会が阻止するので、住民投票でそれを解体し、意のままになる議会を作るのだと言っています。しかし、彼に一票を投じた有権者たちは、二元代表制を否定し、地方自治の根幹である議会を粉砕することまで期待したのでしょうか。今や、５１万票は市長が独裁権力を握るための手段に過ぎなくなり、減税どころか、相次ぐ選挙のために巨額の税金を無駄遣いすることになりました。このように、５１万票の意味を自分に都合よく解釈したのは、欺瞞の第一です。

第二の欺瞞、住民投票を減税問題にすり替え

住民投票の目的についても、欺瞞を行っています。市議会リコール署名をあたかも「減税の署名」であるかのように宣伝して集めたことです。税金問題でリコールができないことは、法律で決められているのを知りながら、市長とそのサポーターズは、減税の旗を立てて、それを署名集めに利用しました。署名の事実上の目的は市議会つぶしなのに、それを減税問題にすり替える。これが欺瞞の第二です。

減税提案そのものが、第三の欺瞞

河村市長は減税を「公約に掲げた」と言いますが、「公約違反の金持ち減税だ」、「そのために公共サービスが減少する」と言う批判には何も答えていません。彼にとっては、まやかしでも何でも票を集めればいいのでしょうか。減税の声につられて署名した市民たちの生活に、河村減税の効果は果たしてあるのでしょうか。

第四の欺瞞、民主主義を逆手にとって民主主義を破壊する

このような「まやかし減税」で署名を集めた市長は、一方では、民主主義の夜明けだとか庶民革命だとか言っていますが、権力者が先頭に立って民衆の不満を吸い取り、議会の牙を抜くことは、逆に民主主義の破壊です。民主主義は対話と討論で成り立つものであり、反対意見なしには存続はしません。そもそも権力者が民主主義を言うこと自体が欺瞞なのです。

第五の欺瞞、偽造と粗製乱造の署名

欺瞞の極め付きは署名運動のそのものです。市長が先頭に立ち、サポーターを動員して集めた署名には、たくさんの偽造が含まれていました。一人で何度も署名したとか、回

覧板で署名簿が回ってきたなどの例も多数ありました。このような偽造を河村市長が扇動して行ったことが、第五の欺瞞です。

なぜ人気が集まるのか

ところで、このような事態を招いたのは、長年のオール与党体制のなかで惰眠を貪った多くの市議会議員たちの態度にあります。彼らが今頃になって36万の署名を厳粛に受け止めても、遅きに失したのです。

選管も、人員と時間の不足はあったにせよ、国政選挙にも準ずるべき業務において、必要な厳しさを欠いていました。

マスコミにもまた、目を引く記事や映像を求めることにこだわって、社会の木鐸としての使命を忘れているのではありませんか。

われわれ市民はどうすればいいのか

以上のようなことを考えた時、来るべき2月6日の投票日にはどうしたらいいのでしょうか。選択肢は、二つあります。

① 市議会解散を「賛成」とすれば、そのための選挙が、おそらく3月に行われます。しかし、1ヶ月後には任期満了の自然解散・選挙となるのが決まっているのに、市長のゴリ押しによる「無駄遣い選挙」を前倒しでわざわざ行う必要があるのでしょうか。

② 市議会解散を「反対」とすれば、4月10日には統一地方選挙が行われます。そこでじっくり見極めて、本当に市民のために働く議員を選ぶことができます。

あなたはどちらを選びますか。

名古屋の民主主義を河村汚染から守るために、堂々と「反対」の票を投じましょう。

2011年1月13日

呼びかけ人（名古屋市政の民主主義を守る14人の会）

立教大学大学院教授	池住　義憲
神学研究者	うのていを
消費税をなくす全国の会常任世話人	大島　良満
ジャーナリスト会議東海事務局長	加藤　剛
真宗大谷派宗議会議員	木全　和博
税理士	倉橋　克実
市議会フオーラム代表	後藤周一郎
愛知大学法科大学院教授	小林　武
元愛知県評議長	成瀬　昇
弁護士	原山　恵子
名古屋大学名誉教授	水田　洋
北病院院長・医師	矢崎　正一
やまうち内科院長・医師	山内　一征
俳優	若尾　隆子

連絡先　水田　洋宅　〒465-0058　名古屋市名東区貴船3-1105　FAX052-703-6230